

目

次

はしがき
序文
編集者のことば

矢野勝明
矢野真胤
渡辺市衛

第一章 原始編

一、原始、古代の大島…………… 1

(一) はじめに…………… 1

(二) 無土器時代…………… 5

(三) 縄文式文化時代…………… 7

(四) 弥生式文化時代…………… 8

 1、櫛目文壺型土器…………… 14

 2、大型壺型土器口縁…………… 17

 3、赤岸出土の土器類…………… 17

 4、八田池出土の土器…………… 18

 5、石器…………… 20

(五) 古墳文化時代…………… 20

 1、古墳の発生…………… 20

 2、藤崎古墳…………… 23

 3、大谷古墳…………… 33

 4、池之谷古墳…………… 34

 5、東条古墳…………… 34

 6、名駒古墳…………… 35

 7、椋名の古墳…………… 37

二、先史文化の意義…………… 38

第二章 古代編（大和と平安）

一、まへがき	42
二、大和朝廷	43
三、律令国家	52
四、名、荘、武家	57
五、河野と村上	76

第三章 中世編（鎌倉と関ヶ原戦）

一、海賊と水軍	89
二、伊予の国と瀬戸内海賊衆	91
三、元寇と村上水軍	92
四、三島水軍の由来	94
五、村上義弘の出現	100

(一) 義弘長門探題を封ず	101
(二) 義弘京都出陣と鎌倉幕府滅亡	103
(三) 建武中興崩潰と懷良親王	105
(四) 脇屋義助の下向と義弘	107
(五) 贈正五位	108
六、河野通堯の帰順と能島の落城	110
七、河野通堯の本国復帰と村上水軍	112
八、新田義宗、脇屋義治伊予下向	113
九、猷寇と南朝の水軍	115
一〇、倭寇とその行状	117
一一、小早川勢力と大島	121
一二、村上水軍西海警護の随一に補せらる	123
一三、村上氏と大内氏、細川氏との関係	124
一四、能島村上雅房と足利將軍義植	126
一五、戦国時代の内海状勢	129

- 一六、嚴島の戦と三島水軍……………131
- 一七、村上武慶の威勢……………134
- 一八、毛利大友戦と村上武慶……………135
- 一九、村上三島水軍の分裂……………137
- 二〇、大阪木津川口の合戦……………138
- 二一、高竜寺炎上と三島水軍首脳会談……………142
- 二二、秀吉の四国征伐と小早川隆景……………144
- 二三、能島村上水軍と竹原移動……………146
- 二四、天正十四年頃の能島殿……………148
- 二五、秀吉四国征伐後の領主……………150
- 二六、能島因島両水軍の流転……………153
- 二七、太閤の水軍成敗……………157
- 二八、文祿、慶長の役と村上水軍……………159
- 二九、村上武慶……………161
- 三〇、関船物語田坂槍之助……………165

- 三一、能島村上伊予引揚……………168
- 三二、三津刈屋口の戦……………170
- 三三、三島水軍の離散……………180
- 三四、能島流游泳術……………183
- 三五、伊予水軍の兵書……………185
- 三六、大島に残る水軍精神の伝統……………189

第四章 近世編（江戸時代）

- 一、関ヶ原の戦と三島水軍始末……………197
- (一) 関ヶ原の戦と三島水軍の働き……………197
 - 1、村上三家の西軍従属……………197
 - 2、来島水軍の活躍……………197
 - 3、能島、因島水軍の松前攻め……………204
- (二) 戦後の処分と三島水軍の行方……………204

	(三) 伝説「城山」考……………	206
	(四) 亀田城退去後の村上氏……………	207
	1、村上義光館あと付近の地名、呼称……………	207
	2、長本寺の記録……………	214
	二、士、農、工、商……………	215
	(一) 松平定房、今治藩主に就封……………	215
	(二) 藩政の機構……………	216
	1、今治藩の中樞機構……………	216
	2、大庄屋……………	216
	3、村役人……………	217
	4、庄屋の役目……………	217
	5、年貢のとりたて……………	217
	(三) 大名と領民……………	218
	1、生まれながらの身分……………	218
	2、お豊様興入れのこと……………	218
	3、奥様、お国殿の御遠行のこと……………	219
	4、異国船渡来の警告……………	221
	5、他藩主の船舶通過の際の心得……………	222
	6、のろし山……………	224
	7、藩主の領内巡視……………	228
	(1) 藩主の隔年在国……………	228
	(2) 馬島への渡島……………	228
	(3) 田中神社への奉納物……………	230
	(4) 渦浦八幡宮への参詣寄進……………	239
	(5) 島方御廻村……………	239
	8、経済の統制……………	240
	(1) 領内自立経済の体制……………	240
	(2) 商人の取り締まり……………	241
	(3) 領内の酒造家保護……………	242

(4)	さつまいもの領外売り出し禁止	243
9、	干ばつ対策	244
(1)	干ばつ状況と祈禱	244
(2)	干ばつの救援措置	247

三、村の開発と農民の暮らし

(一) 元禄時代以降の新田、塩田の開発

1、	新田の開発	250
2、	仁江、八幡、幸新田、志津見等の新田開発	251
3、	名駒新田の開発	251
4、	津島の開発	253
5、	馬島の開発	254
6、	塩田の造成と河川付け替え工事	255
(二)	生産と貢納	256
1、	農民の暮らし	256

(三) 日常生活の統制

2、	年貢米	268
3、	小物成銀	269
(三)	日常生活の統制	275
1、	願い出のいろいろ	275
(1)	鉄砲借用の件	275
(2)	別家、新築の願い出	276
(3)	旅行、出稼ぎの願い出	277
(4)	結婚及び宗門送りの願い出	284
(5)	新池造成、松の貰い下げの願い出	285
2、	質素儉約令及び犯罪の取り締まり	287
(1)	華美、懦弱、盗賊警備のいましめ	287
(2)	人相書の廻状	290
(3)	盗難及び流失物の届け出	291
(四)	信仰とくらし	295
1、	幕府の切支丹対策	295

2、	仏教の奨励と宗門帳	298
3、	法南寺の再建と院憲の称号	299
4、	福蔵寺の建立	304
5、	大般若祈禱	306
6、	五穀成就の祈禱	308
7、	大島四国八十八ヶ所の開設	311
(1)	毛利玄得の生いたち	311
(2)	島四国開所の発心	313
(3)	創設の苦心	316
(4)	玄得らの取り調べと処刑	317
(5)	配所の春秋	319
(6)	準四国の公認	321
(7)	玄得らの遺跡	322
四、	学問と教育	324

(一)	寺子屋の普及	324
(二)	今治藩の心学導入	326
(三)	新民舎の由来	328
1、	新民舎と丹下光亮	328
2、	丹下光亮の生いたち	328
3、	丹下光亮の修業年譜	331
(四)	新民舎の閉塾と光亮の晩年	333
五、	庄屋列伝	333
(一)	仁江村の庄屋	333
(二)	本庄村、津倉浜の庄屋	340
1、	楠木神社の由来	340
2、	本庄村の歴代庄屋	341
3、	津倉浜の歴代庄屋	342
(三)	八幡村の庄屋	342

第五章 近代編(明治、大正、太平洋戦争)

一、政治

(一) 廃藩置県後の行政区画の推移

- 1、県の分合……………357
- 2、大区、小区、郡……………357
- 3、越智郡……………358
- 4、大島内の三小区と所属村名……………360

- (四) 幸新田村の庄屋……………345
- (五) 泊村の庄屋……………346
- (六) 椋名村の庄屋……………349
- (七) 津島村の庄屋……………351
- (八) 福田村の庄屋……………352
- (九) 名村の庄屋……………353

(二) 町村制実施以後における地方自治

- 5、戸長役場……………362
- 1、新制村の誕生……………365
- 2、議事機関……………366
 - (1) 民会の開設……………366
 - (2) 村会及び連合村会……………368
 - (3) 郡会議員……………369
 - (4) 県会議員……………372
- (三) 衆議院議員……………375
 - 1、野間豊五郎……………375
 - 2、村上紋四郎……………375

二、産業

(一) 農業

- 1、愛媛県の勸農事業……………376

2、大島における農業の発達	377
(1) 明治時代の農業技術	377
(2) 米作	384
(3) 麦作	384
(4) 甘藷、雑穀	385
(5) 養蚕	386
(6) 蔬菜	387
(7) 除虫菊	387
(8) 煙草	388
(9) 菜種	388
(10) 果樹	388
(二) 水産業	390
1、志津見海域漁業	391
2、内方海域漁業	391
3、貝類の養殖	392

4、のりの養殖	392
5、棕名海域漁業	393
6、漁業組合	393
(1) 津倉村漁業組合	393
(2) 棕名漁業組合	394
7、漁場紛争	397
(1) 津島沖ふぐ夜釣り差し止めの件	397
(2) 沖の山漁場入漁権設定の件	400
(三) 商工業	403
1、大島酒類製造販売株式会社	404
2、瀬戸内商船株式会社	404
3、五十二銀行津倉支店	404
4、津倉醤油醸造株式会社	404
5、瀬戸内海横断電力株式会社津倉散宿所	405
6、綿織物工場	405

7、	タオル工場	407
8、	麦稗経木真田工場	407
9、	藤田酒造工場	407
10、	矢野製材業	408
11、	村上味噌醤油醸造場	408
12、	石材業	410
13、	鉱石試掘	413
14、	漆器商	416
15、	製塩業	419
(1)	向掘塩田の据え置き歎願の件	420
(2)	明治初期における塩田所在状況	423
(3)	製塩方法の移り変わり	428
(4)	塩田従業員の概要	431
(5)	津倉塩業組合の消長	432
16、	杜氏	433

三、災害

(一)	地震	435
(二)	宗門掘紛争	438
(三)	明治一七年の暴風雨、津波の害	445
(四)	四阪島煙害事件	451
(五)	海難	456
1、	州の崎鼻座礁	456
2、	八重山丸沈没事件	457
3、	宮窪丸遭難事件	460
(六)	泊、田浦の大水害	464

四、衛生

(一)	津倉村における衛生関係年譜	468
(二)	津倉村における伝染病患者数	470
(三)	渦浦村における伝染病患者の記録	473

五、教育……………	474
(一) 明治初期における大島の教育……………	474
1、小学校の開設……………	474
2、英五先生塾……………	475
(二) 小学校の沿革……………	478
1、津倉小学校の沿革……………	478
2、亀山小学校の沿革……………	480
3、棕名小学校の沿革……………	481
4、津島小学校の沿革……………	484
5、泊小学校の沿革……………	485
(三) 歴代校長……………	487
1、津倉小学校歴代校長……………	487
2、亀山小学校歴代校長……………	488
3、棕名小学校歴代校長……………	489
4、津島小学校歴代校長……………	490
六、交通、通信……………	493
(一) 陸上交通……………	493
(二) 海上交通……………	495
(三) 通信……………	498
七、各種機関、団体……………	502
(一) 農業団体……………	502
1、農会……………	502
2、産業組合……………	504
3、農業会……………	505
4、農業協同組合……………	505
(二) 専売局……………	506
(三) 商工会……………	507
5、泊小学校歴代校長……………	490
6、青年学校、実科女学校歴代校長……………	491

- (四) 警察..... 507
- (五) 消防組..... 509
- (六) 青年団..... 512
 - 1、津倉村青年団の発展..... 512
 - 2、渦浦青年団の創設..... 515
 - 3、椋名青年倶楽部の結成と活動..... 516
- (七) 婦人会、処女会、女子青年団..... 519
- 八、軍事..... 522
 - (一) 兵事会..... 522
 - (二) 日清戦争と小島砲台の築造..... 524
 - (三) 日露戦争への従軍..... 526
 - (四) 在郷軍人会..... 528
 - (五) 日本人ここにあり..... 531
 - (六) 日華事変、太平洋戦争と銃後の生活..... 533

第六章 現代編 (太平洋戦争終了、現時)

- 一、戦後の混乱期..... 537
 - (一) 国内情勢、民主化への道..... 537
 - (二) 苦しい生活..... 538
 - (三) 教育制度の改革..... 541
 - (四) 農地改革..... 560
- 二、復興期..... 564
 - (一) 内外の動き..... 564
 - (二) 町村合併..... 565
- 三、建設期..... 567
 - (一) 吉海町として出発..... 567
 - (二) 吉海町のあゆみ..... 571

付記	598
統計資料	596
おわりに	596